

平成 28 年度

**「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」
及び「学校関係者評価報告書」**

大阪市立安立小学校

平成 29 年 3 月

平成28年度

学校運営の計画

最終評価
3月2日



大阪市立安立小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

・全国学力学習状況調査では、国語科の知識に関する問題の読み取る力や活用に関する問題の「話す・聞く・書く」に課題が見られた。このことから、研究教科を国語科と決め、毎年行っている国語診断テストの正答率を上げたり、無回答率を下げたりすることを目標として取り組むこととした。

また、学力の向上には、児童の学習意欲を高めることが大切であり、ICTを活用したわかりやすい授業をめざすこととした。

・全国学力学習状況調査や学校アンケートでは、「学校のきまりを守っていますか」という項目に課題が見られた。このことは、学習規律を守り、児童が安全な学校生活を過ごすことにも関係している。

また、児童の実態として、落ち着いて学習に取り組めない子どもや、児童間のトラブルも見られた。学校教育の目標の一つに、「やさしい子」を掲げ、人権教育を核として、児童の仲間づくり、いじめの解消、あいさつの習慣を中心に取り組むことにした。

・全国体力・運動能力運動習慣調査では、50m走や柔軟性に課題が見られた。また、学校児童アンケートでは、「ハンカチを毎日持ってきている」「手洗いうがいをきちんとしている」項目に課題が見られた。体育科授業で、走、跳の運動の授業を計画的に取り入れ、体力の向上を図ることにし、また、がんばりカードを活用して児童の健康の習慣を身につけさせることにした。

・学力の向上は、教員の指導力の向上と密接につながる。本校は若手教員が多く、研究活動を活発にして、授業の質を高め、「授業が分かりやすい」と思う子どもを増やすことにした。

中期目標

【視点 学力の向上】

- 国語科学習理解度到達診断における正答率7割以上の児童の割合を、毎年、全学年で前年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 学習理解度到達診断における無回答率を毎年、全学年で5%以下にする。（カリキュラム改革関連）
- ICTを活用した分かりやすい授業を行い、本校アンケートの「教科の内容が分かるようになる」という項目を、毎年、全学年で前年度より向上させる。（カリキュラム改革関連・グローバル化改革関連）

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成27年度の学校生活アンケート調査で、次の各項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と回答する児童の割合を、平成24年度より増加させる。（カリキュラム改革関連）
 - ・「学校のきまり（規則）を守っていますか」
 - ・「あいさつをしていますか」
 - ・「お互いの違いを認め合い支え合うことがたいせつであることについて、学ぶことが多い」
- 毎年、学校で認知したいじめについて、解消にむけて組織的に対応している割合を100%にする。（マネジメント改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成28年度における校内体力調査において、50m走と立ち幅とびの記録を、平成24年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の本校の記録より、全学年で向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 本校アンケート調査で、次の各項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と回答する児童の割合を、毎年、全学年で前年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）
 - ・「手洗い・うがいをきちんとしているか」
 - ・「ハンカチ・はなかみをもってきているか」

【視点 教員の資質向上】

- 主題にせまる研究活動を計画的に実施し、本校アンケート調査で、次の各項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と回答する児童の割合を、全学年で前年度より毎年向上させる。（マネジメント改革関連）
 - ・「授業が分かりやすい」

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ① 「大阪市小学校学力経年調査」国語科における正答率7割以上の児童の割合において、55%を上回るようにする。(カリキュラム改革関連)
- ② 「大阪市小学校学力経年調査」における無解答率において、全学年5%を下回るようにする。(カリキュラム改革関連)
- ③ ICTを活用した分かりやすい授業を行い、学校アンケートの「教科の内容が分かるようになる」という項目において、90%を上回るようにする。(カリキュラム改革関連・グローバル化改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 本年度の学校アンケート調査で、次の各項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と回答する児童の割合を、前年度より増加させる。(カリキュラム改革関連)
 - ・「学校のきまり(規則)を守っていますか」
 - ・「あいさつをしていますか」
 - ・「お互いの違いを認め合い支え合うことがたいせつであることについて、学ぶことが多い」
- ② 学校で認知したいじめについて、解消にむけて組織的に対応している割合を100%にする。(マネジメント改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 校内体力調査において、50m走と立ち幅とびの記録を、昨年度の記録より、向上させる。
(カリキュラム改革関連)
- ② 本校アンケート調査で、「運動やスポーツをすることが楽しい」と答える児童が、85%を上回るようにする。
- ③ 本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について、「あてはまる(どちらかといえばあてはまる)」と回答する児童の割合を、全学年で昨年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)
 - ・「手洗い・うがいをきちんとしているか」
 - ・「ハンカチ・はなかみをもってきているか」

【視点 教員の資質向上】

- ① 主題にせまる研究活動を計画的に実施し、本校アンケート調査で、次の各項目について、「あてはまる(どちらかといえばあてはまる)」と回答する児童の割合を、全学年で85パーセント以上にする。
(マネジメント改革関連)
 - ・「授業が分かりやすい」

3 本年度の自己評価結果の総括

「考える子」については、今年度より体育科を研究教科として取り組みをすすめ、子ども自身が「気づき」、「つまづき」を見出し、高めるための授業の構築を行った。外部講師から継続的に指導助言を受けながら、主体的で対話的な学びの場の創造を行った。適度な困難度に積極的に向かい自らを高めようとする児童が増えた。この体育科の学びの姿勢は、他教科でもよい影響を与え、学習に対してねばり強く考える姿勢になりつつある。そのためか「大阪市小学校学力経年調査」の無解答率は目標値の5%を切る学年も出てきた。一方で、鉄棒や体育器具などの環境設定が本校の現状に妨げられている面があり、体力の保持増進に必要な体育器具の購入を計画的に行い、学習環境を整える必要がある。

従来の読書タイムや読み聞かせ等の取り組みの継続、図書委員会・図書館補助員との連携と環境作り、生涯学習ルーム「ぼちぼちいこか」の読み聞かせ等の取り組みから「本を読みたい」と思える子どもを増やすことができた。また、漢字検定への取り組みにより漢字習得への意欲の高まりが見られ、漢字に関する力の向上につながっている。今後は、外国語活動につなげる図書の整備、住之江図書館との連携などを活発化させて、本に親しむ子どもを育てていく。

「やさしい子」については、「道徳心・社会性の育成」と関連をもたせ取り組んだ。「あいさつ」「きまり」「認め合い支え合い」について多くの児童ができているが、達成状況としては減少している面もあり、支援の質を高めていかなければならない。いじめについてのアンケートも学期ごとにとり、スクールカウンセラーや子育て支援室、こども相談センター等の外部機関とも連携し組織的に対応することができた。しかし、課題のある子どももたくさんおり、よりきめ細やかな対応をしていく必要がある。「がんばる子」については、「健康・体力の増進」に関連をもたせた。耐寒駆け足・みんな遊び・ゲストアスリートによる指導等により、運動量を確保するとともに運動に対する意欲を向上させることができた。また、手洗い・うがい・ハンカチはなかみの携行など健康に関する取り組みも進め、一定の成果を得た。

次年度も、子どもたちの教育環境を高め、支援を充実させ、目標達成に向け努力していきたい。

大阪市立安立小学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準

A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 ① 「大阪市小学校学力経年調査」国語科における正答率7割以上の児童の割合が、55%を上回るようにする。(カリキュラム改革関連) ② 「大阪市小学校学力経年調査」における無解答率において、全学年5%を下回るようにする。(カリキュラム改革関連) ③ ICTを活用した分かりやすい授業を行い、学校アンケートの「教科の内容が分かるようになる」という項目において、90%を上回るようにする。(カリキュラム改革関連・グローバル化改革関連) ① 【平成24年度】55.9% 【平成25年度】55.4% 【平成26年度】57.6% 【平成27年度】52.1% 【平成28年度】56.5% ② 【平成24年度】3.0% 【平成25年度】2.3% 【平成26年度】2.9% 【平成27年度】3.0% 【平成28年度】6.5% ③ 【平成24年度】48.7% 【平成25年度】86.7% 【平成26年度】88.7% 【平成27年度】90.2% 【平成28年度】83%	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【読書活動の充実】 住之江図書館との連携や学校図書館補助員の活用などにより、子どもが読書に親しむ環境を高める。 指標 毎週水曜日の朝に読書タイムを全校で実施し、子どもたちが集中して読書に取り組めるようにする。(読んだ本の冊数やページ数を記録し、自己の励みとする。)	B
取組内容②【言語力や論理的思考能力育成】 様々な学習や活動の場面で、読解・記述・コミュニケーションなど活かした言語活動をできるようにする。 指標 学校アンケートで「自分の言葉で考えや思いを発信できる」と回答する子どもの割合を、50%以上にする。	A
取組内容③【ICTを活用した教育の推進】 ICTを有効に活用し、分かりやすい授業を実施する。 指標 ICTを活用した授業を各クラスで週1回は実施する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 水曜日の朝は「読書タイム」と定着した。読書の記録に関しては、100冊以上読んだ児童を全校の前で称賛したが、きちんと記録をしない児童もいた。児童の本への興味・関心を高めるために、シャッフル読書を今年度も継続して行い、年6回、計画通りに実施できた。また、生涯学習ルーム「ぼちぼちいこか」の読み聞かせも全学年実施していただいた。さらに学校図書館補助員・図書委員会が主となり環境面が整備され、図書館開放(週4回)を行うことによって図書室の利用も増えた。図書館見学したり集団貸出しを行ったりしているが、住之江図書館と十分に連携できなかった学年もある。
- 学校アンケートでは67%の児童が「自分の言葉で考えや思いを発信できる」と回答した。日頃の授業の中での学習形態の工夫や朝の会・終わりの会などさまざまな場面設定をしたり、全ての委員会で全校に向けた発表を行うなどの取り組みを計画的に実施したりした。
- 3学期に全教室に大型液晶テレビが完備された。書画カメラをつないで、ノートの使い方を示したり、授業用パソコンやタブレットを用いて、学習資料などを児童にわかりやすく提示したりした。

次年度への改善点

- 集団貸出しについては、年度初めにいつ、どのような本を貸し出してもらうのか各学年で計画し、取り組んでいく。
- 自分の言葉で考えや思いを発信できるように、周りの環境の整備のさらなる工夫を進めていく。
- 授業用パソコンやタブレットの使い方の研修を設け、ソフト面を共有したり、手軽に効率よく使用することができるよう工夫したりしていく必要がある。また、児童がパソコンの操作に慣れるために、系統立てた計画を考えていくとともに、パソコン室の整備もしていく。

大阪市立安立小学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準

- A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】 ① 本年度の学校アンケート調査で、次の各項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と回答する児童の割合を、前年度より増加させる。(カリキュラム改革関連) ・「学校のきまり(規則)を守っていますか」 H24. 86% H25. 88% H26. 81% H27. 68. 2% H28. 78% ・「あいさつをしていますか」 H24. 84% H25. 93% H26. 87% H27. 83. 3% H28. 82% ・「お互いの違いを認め合い支え合うことがたいせつであることについて、学ぶことが多い」 H24. 86% H25. 86% H26. 83% H27. 85. 7% H28. 76% ② 学校で認知したいじめについて、解消にむけて組織的に対応している割合を100%にする。(マネジメント改革関連)	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【道徳教育の推進】 進んであいさつのできる子どもを育てている。	A
指標 児童会を中心に各学期に1週間「あいさつ運動」を実施し、チェックカードを作って振り返りを行う。	
取組内容②【道徳教育の推進】 学校のきまりを守ることにについて、生活目標を設定する。また、強調週間を設定し、全職員で日常的に指導する。	B
指標 生活目標を学期ごとに設定する。 強調週間を実施し、チェックカードを作って振り返りを行う。	
取組内容③【道徳教育の推進】 体験的な活動を通して、思いやりの心を育てる。(ソーシャルスキル、まつぼっくりまつり、手話の学習、車いす体験、盲導犬の学習、妊婦体験、高齢者体験など)	A
指標 体験的活動を軸に、各学年において、生活・総合的な学習を、効果的に展開する。	
取組内容④【特別活動】 きょうだい学級の編制により、活動の活性化を図り、異学年交流を深める。	A
指標 毎週金曜日の20分休みにきょうだい学級での活動を実施する。(なかよしタイム)	
取組内容⑤【いじめへの対応】 いじめ対策委員会を中心に校内の状況を全職員で共通理解し、対策を講じる。	B
指標 情報共有を図り、月に一回の対策委員会を実施し、必要に応じて対策を打ち出す。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 進んであいさつのできる児童が増えた。あいさつ運動の進め方を運営委員会で話し合い、代表委員の児童が校舎内に散らばり、自然にあいさつのできる状況を作ること、あいさつ運動が終わっても、自然にあいさつができるようになった。
- ② がんばり週間のめあてを「身の回りの物をたいせつにしよう」に設定し、全学年のアンケート結果では、66.4%の児童がものを大切にしようと思った。また、がんばり週間が終わっても、ものを大切にすると回答した児童は、92.4%となった。
- ③ 各学年で体験的な活動を計画し、実行できた。2年生では、手話の学習で「優しい想像力」というお話をしてくださり、相手は何を伝えたいのか受け取る側の優しい想像力が大切だということを知ることができた。手話学習に来てくださったスタッフの方と積極的に手話でコミュニケーションをとる児童が多くみられた。
- ④ 全学年で、なかよしタイムができなくても、実施できるきょうだい学年間で行えるように工夫した。
- ⑤ いじめ対策委員会で情報共有を図り、必要に応じて対策を打ち出す体制を整えた。

次年度への改善点

- ・ 強調週間を、がんばり週間と名前を変え、親しみやすいようにする。また、全職員で日常的に指導していく必要がある。
- ・ 生活科、総合的な学習の時間などを使い、自尊心や相手を思いやる心が育つように支援の質を高める必要がある。
- ・ 効果的な体験活動を計画し、活動を通してどのような力を身につけさせたいかを明確にし、指導につなげる必要がある。
- ・ 今後も、いじめの早期発見に努める。

大阪市立安立小学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準

- A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標									達成 状況
【視点 健康・体力の保持増進】									B
① 校内体力調査において、50m走と立ち幅とびの記録を、昨年度の記録より、向上させる。 (カリキュラム改革関連)									
	25年度	26年度	27年度	28年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	50m [秒]	50m [秒]	50m [秒]	50m [秒]	立ち幅 [cm]	立ち幅 [cm]	立ち幅 [cm]	立ち幅 [cm]	
1年	11.9	12.4	12	12.3	107	96	108	99.7	
2年	11.1	10.7	11.6	11.7	123	105	110	114.0	
3年	10.3	10.1	10.3	10.7	137	125	127	122.5	
4年	9.5	10	10.1	9.7	138	142	138	129.6	
5年	9.3	9	9.4	9.6	149	153	151	138.5	
6年	9	9	8.9	9.0	168	153	154	154.4	
② 本校アンケート調査で、「運動やスポーツをすることが楽しい」と答える児童が、85%を上回るようにする。→ 86%									
③ 本年度の本校アンケート調査で、次の各項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と回答する児童の割合を、全学年で昨年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）									
・「手洗い・うがいをきちんとしているか」 (平成25年度) 83%→(平成26年度) 81.4%→(平成27年度) 78%→(平成28年度) 82%									
・「ハンカチ・はなかみをもってきているか」 (平成25年度) 56%→(平成26年度) 56.8%→(平成27年度) 61%→(平成28年度) 69%									

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【体育的活動の充実】 「運動に親しむ資質や能力の基礎」を育てるための授業の構築をすすめる。	B
指標 子どもたちが主体的に学習をすすめるための環境を整備する。	
取組内容②【健康的な生活習慣の確立】 保健週間の実施で手洗い・うがい・ハンカチ・はなかみの携行の習慣が身につくように指導する。	A
指標 学期ごとに1週間、手洗い週間を実施し、チェックカードを作って振り返りを行う。	
取組内容③【健康的な生活習慣の確立】 毎月の欠席調査やけがの実態調査と分析に基づく適切な指導や「保健だより」などを活用した病気やけがの防止や、「給食だより」「食育だより」を活用した食に関する啓発活動等を行う。	B
指標 「保健だより」「給食だより」「食育だより」を毎月発行する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 本年度より、体育を研究教科とし、子どもたちが主体的に学習をすすめるための環境を徐々に整え、授業の構築を進めた。(鉄棒用サポートパット、大縄、スポンジボール、段ボールハードル、タグ、デジタイマーなどの教具の活用や、砂場の砂の入れ替え、ジャンピングボードの設置場所の工夫などを行い、学習環境を整えた。授業では、児童が主体的に活動できるように、課題設定を工夫した。その結果、休み時間に鉄棒やなわとびに意欲的に取り組む児童がふえた。)
- ② 保健週間を学期ごとに設定した。(1学期は6/27~7/1、2学期は11/14~11/18、3学期は2/6~2/10に実施。)
チェックカードは、一年間を通して自分を振り返ることができるよう、同じ台紙にチェック表を重ねてはった。そのことにより、前の学期を振り返りながら、意欲的に取り組もうとする児童がみられた。その結果、手洗い・うがいについてのアンケート結果が前年度より向上した。
- ③ 「保健だより」「給食だより」「食育だより」を毎月発行した。発行をもとに、各学級で疾病の予防や季節に応じた旬の食材など、啓発活動を行った。また、委員会活動につなげ、委員会から学校全体に呼びかけを行った。

次年度への改善点

- ① 学習環境の整備をさらに進めていく必要がある。(具体例：運動場用マット、とび箱のふみきり板など)
- ② チェック表について、学級での振り返りや、委員会活動でさらに活用することができるように取り組んでいく。
- ③ 指標を『「保健だより」「給食だより」「食育だより」を毎月発行する。』としていたが、次年度は、発行されたものを活用するという視点で指標を設定する必要がある。

大阪市立安立小学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準

- A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標						達成状況	
【視点 教員の資質向上】							
① 主題にせまる研究活動を計画的に実施し、本年度の本校アンケート調査で、次の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と回答する児童の割合を、全学年で85%以上にする。（マネジメント改革関連）							
・「授業が分かりやすい」							
		児童				児童	
平成25年度	「とてもあてはまる」	35.2	86.7	平成27年度	「とてもあてはまる」	46.7	90.1
	「あてはまる」	51.5			「あてはまる」	43.4	
平成26年度	「とてもあてはまる」	48.5	88.7	平成28年度	「とてもあてはまる」	42.7	86.6
	「あてはまる」	40.2			「あてはまる」	43.8	

B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標		達成状況
取組内容①【研究授業】 全学年で研究授業を実施し、指導力の向上に努める。	指標 全教員が1年間に1回は必ず研究授業を行う。	A
取組内容②【教員研修】 外部講師を招聘して、授業・教材研究を実施する。	指標 研究教科の体育科の講師を年間3回以上招聘する研究会を行う。	B
取組内容③【教員研修】 若手教員の部会を工夫して持ち、全教員の指導力向上につなげる。	指標 メンターを中心に学期に1回程度、部会を持つ。	B
取組内容④【指導力向上】 研究・研修の成果を日々の学習活動に活かす。	指標 授業デザイン力を身につけるため、各学年で1単元は体育科において効果のある指導計画を立て、学年で実践する。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

今年度目標は、概ね達成できた。取組の進捗状況の結果と分析は以下のとおりである。

- ① 全教員が1年間に1回は、研究授業を行った。実施日等については、別紙「研究・研修の経過」に記した。授業への参観は同学年内では積極的に行われていた。現状は、この実施形態が無難であろうと考える。討議会に関しては、今年度は、前年度通り行わない方向で実施した。新任研の討議会は、時間を有効活用する観点から、時間を設定して持つ方がよいと思われる。
- ② 体育の講師を年7回招聘し、研究会を行った。内容は、理論研修(研究授業指導講評)6回、実技研修(夏季休業中)1回である。研究初年度にふさわしい基本的な内容であり、資質向上に役立った。
- ③ 若手教員は、日々の実践を通して、自らの資質向上に努めた。また、全教職員で若手教員の指導支援にあたった。若手教員の資質向上が図られたとともに、全教職員の指導力向上にもつなげることができた。
- ④ 研究授業を通して、6学年分の1単元分の指導計画を作成することができた。次年度、活用することを通して修正を加える。

達成状況の評価基準

- ① A…100%実施 ② A…3回実施 ③ A…3回実施 ④ A…現時点での効果のある指導計画(6学年分)文書にて作成

今後への改善点

- ・研究教科、新任研、2年次研、公開授業など、研究授業に対する実施方法並びに運営方針の検討を行う。
- ・メンター研修を含めた研修の精選と整理を行い、計画をもとに研修を実施する体制を構築する。
- ・評価の在り方の検討をする。他者評価・自己評価・結果評価(学力状況)など、新たなものを作り出すのではなく、今現状行っていることを活用し、多面的な評価を行う。
- ・教員の資質向上につながるよう、前年度までの研究成果を次年度にどのように活かすか検討していく。
- ・取組内容③の指標を変更する。「若手教員の指導力向上に特化した基本的な研修会を年6回程度実施する」(提案)

※これらの改善点の具体策は、年度まとめの研究推進委員会兼研究部(3/7)で検討し、最終の研究全体会にて提案する。

運営に関する計画資料（教員の資質向上）

	◎主な研究活動・○公開授業・年次研修・○全体研修・□選択研修 下線は実践事例の研究授業
4月	○拡大特別支援教育部会(4/13) ○人権教育研修会(4/18) ○之江支部総会(4/20) ◎研究主題・組織・計画の原案作成（第1回研究推進委員会）(4/27)
5月	○防災訓練レクチャー(5/6) ○ICT研修会(5/9) ◎研究全体会(5/17) ○エビペン講習会(5/19) □市人教区総会・人担者会(5/23) ○救急救命心肺蘇生法研修会(5/24) □同推協新転任者研修会(5/25)
6月	○3区合同地域人権研修会(6/1) ○新任研授業（社会）（田中小）（6/3） ○公開授業（特別支援教育）（古川・北岡・藤木・浅野）（6/6） ◎第2回研究推進委員会(6/7) ◎研究授業・討議会5年(中村)(6/10) ○同推協全体研修会(6/15) ○新任研授業（算数）（藤原晃）（6/23） ○公開授業（算数）（友政）（6/23） ○新任研授業（算数）（山内）（6/23） □大阪市人権・同和教育研究大会(6/24・25) ○新任研授業（算数）（小島）（6/30）
7月	○体育実技研修会（鉄棒）（7/4） ○特別支援教育全体会(7/5) ○人権教育研修会（7/21） ○体育実技研修会（石山武氏）(7/22)
8月	□教育課程編成研修会(8/17・18・19) ○ICT研修会(8/30)
9月	□同推協新転任者研修会（9/7） ○教育課程説明会伝達会（9/13） ○公開授業（特別支援教育）（古川・山内・藤木・浅野）（9/14） ◎第3回研究推進委員会（9/21）

10月	○コンプライアンス研修 (10/5) ○教育実習生研究授業 (10/7) ○公開授業(体育)(西岡) (10/7) <u>◎研究授業・討議会3年(秋山) (10/18)</u> ○3区合同地域人権研修会 (10/19)
11月	□学校マネジメント研修会 (11/1) ○住之江区人権教育実践交流会 (11/2) ◎第4回研究推進委員会 (11/8) ◎第5回研究推進委員会 (11/10) ◎第6回研究推進委員会 (11/15) ◎第7回研究推進委員会 (11/16) □同推協公開授業研究会 (11/16) <u>◎研究授業・討議会6年(西岡) (11/17)</u> <u>◎研究授業・討議会1年(岩下) (11/22)</u> ○公開授業(体育)(三上) (11/24) ○新任研授業(体育)(藤原晃) (11/24) □全国・人権・同和研究会 (11/26・27) <u>◎研究授業・討議会4年(友政) (11/28)</u> ○公開授業(体育)(半田) (11/28) <u>◎研究授業・討議会2年(福島) (11/29)</u>
12月	○ICT訪問研修会 (12/6) ○新任研授業(図工)(山内) (12/8) ○公開授業(理科)(中平) (12/9) ○新任研授業(社会)(小島) (12/13) ○新任研授業(理科)(田中小) (12/14)
1月	○英語活動研修会 (1/11) □大阪市小学校教育研究会総合研究発表会全体会 (1/26) ○新任研授業(算数)(田中小) (1/23) ○公開授業(体育)(杉本) (1/25) ○公開授業(理科)(小林) (1/26)
2月	○住之江支部教員研究発表会 (2/1) ○公開授業(算数)(中平・藤原晃・友政・小田原) (2/2) ○公開授業(体育)(山本真) (2/6) ○新任研授業(国語)(山内) (2/6) ○新任研授業(理科)(藤原晃) (2/6) ○3区合同地域人権研修会 (2/8) □大阪市小学校教育研究会総合研究発表会教科 (2/10)

	○人権教育研修会 (2/14) ○公開授業 (特別支援) (藤木) (2/16) ○公開授業 (道徳) (廣岡) (2/21) ○新任研授業 (理科) (小島) (2/22) □同推協人権全体公演会 (2/15) □大阪市小学校教育研究会総合研究発表会領域 (2/24) ○特別支援教育全体会 (2/28・3/1) ○公開授業 (算数) (竹林) (2/) ○公開授業 (外国語活動) (大塚・南) (2/)
3月	○公開授業 (総合) (竹林) (3/) ◎第8回研究推進委員会 (3/6) ○校内人権教育実践交流会 (3/8) ◎研究全体会 (3/16)

平成 28 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立安立小学校 学校協議会

1. 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は、概ね妥当である。

児童及び保護者アンケート結果からもわかるように、学校は、子どもたち一人ひとりにあった教育活動をめざし、一定の成果をあげている。今後は、課題解決に向けた取り組みを推進する必要がある。

2. 年度目標ごとの評価

<年度目標：学力の向上>

- ① 本年度の「大阪市小学校学力経年調査」国語科における正答率 7 割以上の児童の割合が、55%を上回るようにする。(カリキュラム改革関連)
- ② 本年度の「大阪市小学校学力経年調査」における無回答率で全学年 5%を下回るようにする。(カリキュラム改革関連)
- ③ 教育 ICT 機器を活用した分かりやすい授業を行い、授業アンケートの教科の内容が分かるようになるという項目で 90%を上回るようにする。(グローバル化改革関連)

〔評価〕(1)【平成 26 年度】57.6%【平成 27 年度】52.1%【平成 28 年度】56.5%

平成 27 年度を上回っていることにより、達成状況の評価に関しては妥当である。

(2)【平成 26 年度】2.9%【平成 27 年度】3.0%【平成 28 年度】6.5%

平成 27 年度を下回っていることにより、達成状況の評価に関しては妥当である。

(3)【平成 26 年度】88.7%【平成 27 年度】90.2%【平成 28 年度】83%

平成 26 年度から平成 27 年度にかけて毎年度向上しておったが、下降したので達成状況の評価に関しては不満である。

<年度目標：道徳心・社会性の育成>

- ① 本年度の学校生活アンケート調査で、次の各項目について、「当てはまる（どちらかといえ、当てはまる）」と回答する児童の割合を、前年度より増加させる。(カリキュラム改革関連)
 - ・「学校のきまり（規則）を守っていますか」 ・「あいさつをしていますか」
 - ・「お互いの違いを認め合い支え合うことがたいせつであることについて、学ぶことが多い」
- ② 学校で認知したいじめについて、解消にむけて組織的に対応している割合を 100%にする。(マネジメント改革関連)

[評価] (1)・「学校のきまり（規則）を守っていますか」

平成 26 年度 81% 平成 27 年度 68.2% 平成 28 年度 78%

・「あいさつをしていますか」

平成 26 年度 87% 平成 27 年度 83.3% 平成 28 年度 82%

・「お互いの違いを認め合い支え合うことがたいせつであることについて、
学ぶことが多い」

平成 26 年度 83% 平成 27 年度 85.7% 平成 28 年度 76%

どの項目についても割合を上昇させることができなかったことにより、達成状況の評価に関しては妥当である。

(2) 学校で認知したすべてのいじめについて組織的に解消に向けた対応をすることができた。達成状況の評価に関しては妥当である。

3. 今後の学校運営についての意見

入学式や卒業式、運動会、音楽会等に加え、土曜授業や学習参観などを設定し、開かれた学校づくりを推進していることは評価できる。次年度以降も引き続き行っていただきたい。課題を抱える子どもたちについても、関係諸機関と連携を強化しながら、支援を重ねる必要である。

平成 2 8 年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」
及び「学校関係者評価報告書」

(添付資料)

- ☐ 全国学力・学習状況調査の結果から明らかになった現状
- ☐ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から明らかになった現状
- ☐ 児童生徒等の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状
- (☐ 各種年間計画 : ○○年間計画、△△△△年間指導計画、 . . .)

※ 提出する書類に、☒を付けてください。

大阪市立安立小学校

平成 29 年 3 月

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区名	住之江区
学校名	大阪市立安立小学校
学校長名	佐藤 英明

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にさせていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全生徒
- ・安立小学校では、第6学年 95名

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語A・国語B・算数A・算数Bの平均正答率の全国的な傾向は似ている。

国語Aは大阪市平均を上回り、算数Bは大阪市平均並みとなっているが、国語A・Bおよび算数A・Bいずれも、全国平均を下回っている。

国語は、AおよびBにおいて、「読む」における正答率が比較的高く、「話す・聞く」における正答率が他の領域よりも低い。

算数Aにおいては、「量と測定」における正答率が全国平均よりも高く、「図形」における正答率が低くなっている。しかし、算数Bにおいては、「図形」における正答率が全国平均よりも高く、「量と測定」における正答率が低くなっている。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

＜国語＞目的に応じて複数の文章を選んで読むことや文章を比べながら効果的な読み方を工夫することにおいて、ポイントが高かった。しかし、目的や意図に応じて書く事柄を整理することやインタビューの目的に応じて質問したいことを整理することなどにおいて、正答率が低かった。

＜算数＞単位量当たりの大きさの求め方を理解していることや問題場面に示された条件をもとに他の図形についても同じきまりが成り立つかを調べることにに関して、ポイントが高かった。しかし、説明を解釈し用いられている考えを別の場面に適応してその説明を言葉と式を用いて記述することについて、ポイントが低かった。さらには、示された資料のほかに必要な情報を判断し特定することにおいてもポイントが低かった。

質問紙調査より

半数を超える子どもたちが、友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意と感じており、全国平均を上回っている。テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている割合も、全国平均を上回っており、これらの要素は情報収集し発信することにつながると考える。生活面では、寝る時刻の遅さが目をひいている。心身両面において良好なコンディションで学習や活動に臨めるように、規則正しい生活の確立が不可欠である。「総合的な学習の時間」において課題解決に向けて情報収集から発信につなげる」「学級内で話し合いきまりなどを決める」などを実感できている子どもが少なく、学習も含めた学校生活において、主体的に高め合っていけるように支援を強めていく必要がある。

今後の取組

国語科に関しては、質問・情報収集・整理などコミュニケーション力を高めながら、意見交流の場を充実させ、主体的に課題を追求できるようにする。発表・伝達・音読・読書など言語力向上につながる環境もさらに整備していく。漢字能力検定についても、言語事項習得の軸として位置づけながら、取り組みを続ける。

算数科においては、数学的事象に関する基礎・基本を習得させながら、数に関する感覚を豊かにする場を重ねていく。自分の考えを事象と関連付けて組み立て交流し発信することによって、数学的に思考する力を高めあえるようにする。

【 全体の概要 】

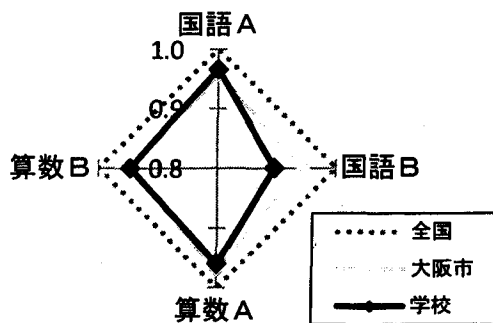
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	70.4	51.8	74.5	44.7
大阪市	69.7	54.6	75.3	44.7
全国	72.9	57.8	77.6	47.2

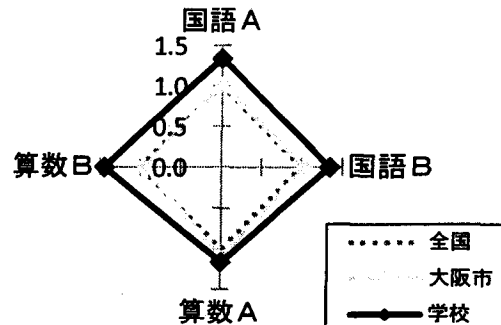
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	7.1	6.2	2.1	10.7
大阪市	5.4	4.8	2.0	7.0
全国	5.3	4.6	1.8	7.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



【 国 語 】

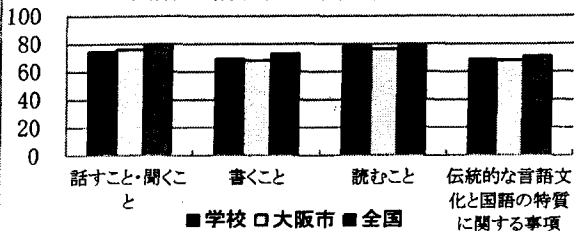
A 問題

平均正答率(%)

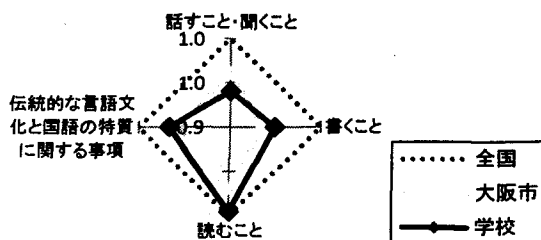
学校 大阪市 全国

学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	74.5	76.1	79.2
	書くこと	2	69.1	68.1	72.8
	読むこと	2	78.2	76.2	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	10	68.7	68.0	71.1

国語A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語A 領域別正答率(対全国比)



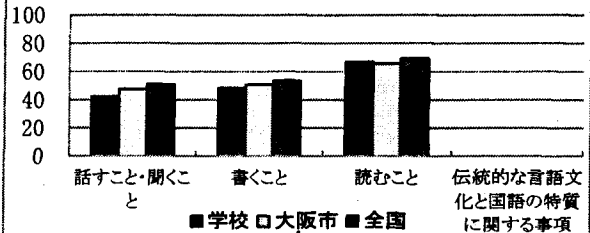
B 問題

平均正答率(%)

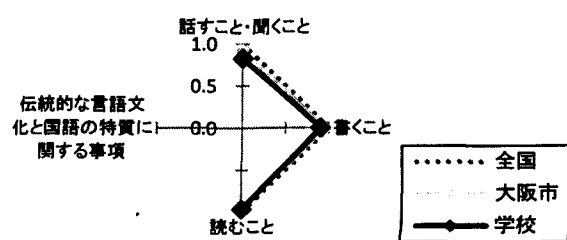
学校 大阪市 全国

学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	42.2	47.3	51.1
	書くこと	6	48.2	50.7	53.4
	読むこと	3	67.0	65.6	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—	—

国語B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



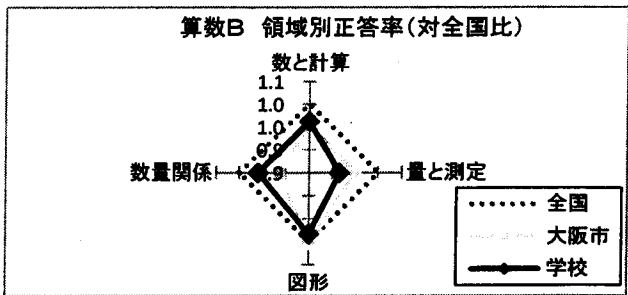
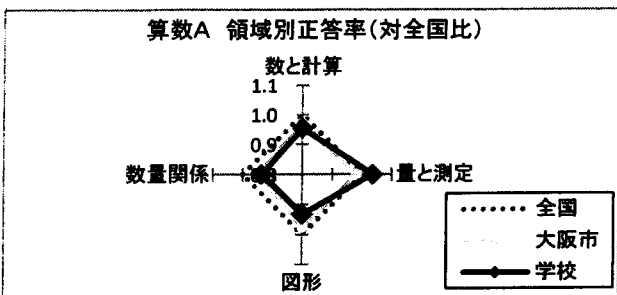
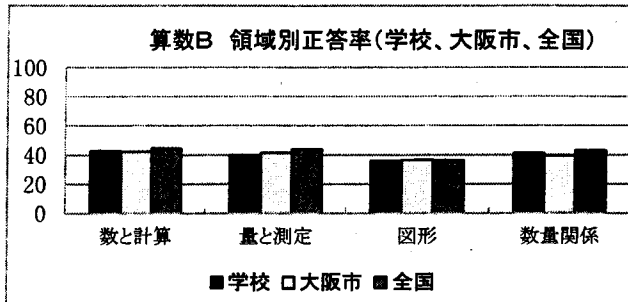
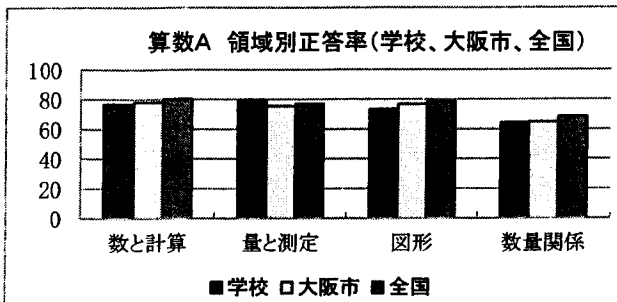
国語B 領域別正答率(対全国比)



【 算 数 】

A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	10	76.8	78.1	80.5
	量と測定	2	79.8	75.6	77.0
	図形	2	73.4	76.8	78.8
	数量関係	3	64.2	64.8	68.5

B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	6	42.7	42.3	44.4
	量と測定	5	40.0	41.5	43.7
	図形	3	35.7	36.5	36.3
	数量関係	6	41.2	39.2	42.9



児童質問紙より

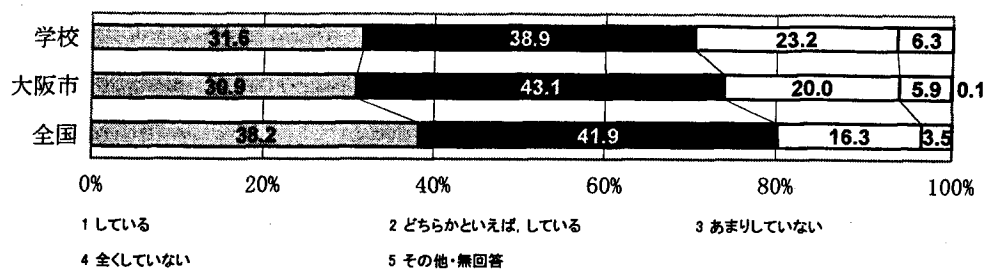
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 □8 □9

質問番号

質問事項

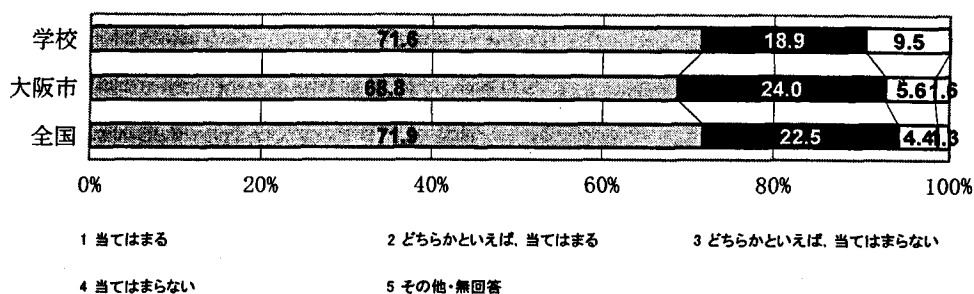
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



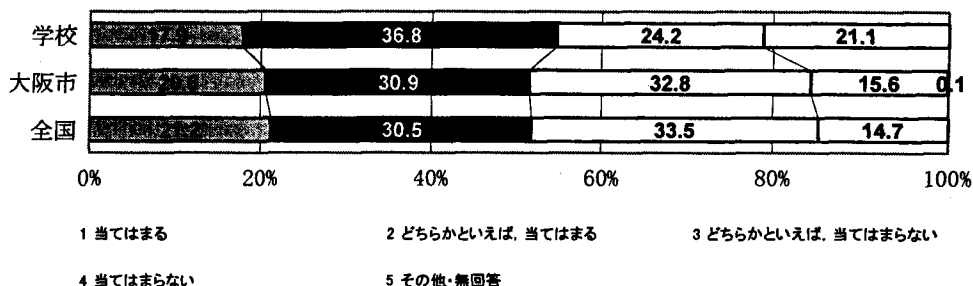
4

ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



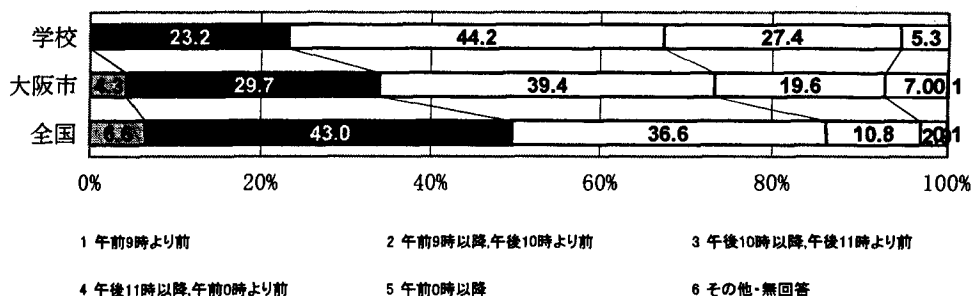
7

友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか



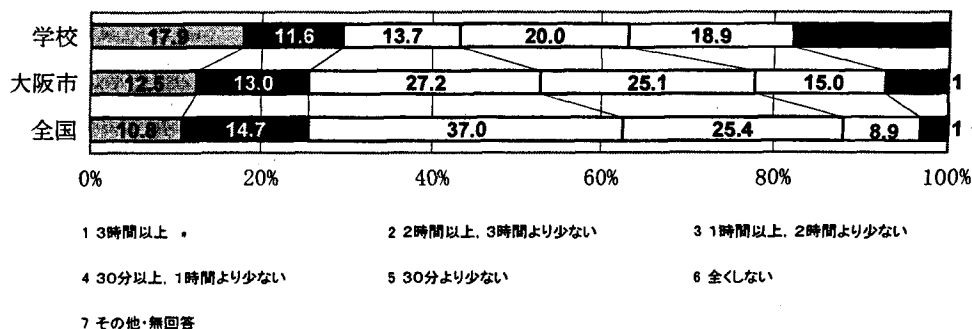
10

普段(月～金曜日), 何時ごろに寝ますか



14

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



児童質問紙より

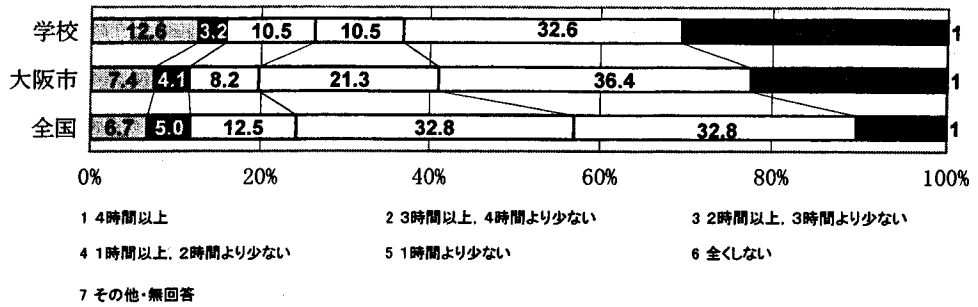
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 □8 □9

質問番号

質問事項

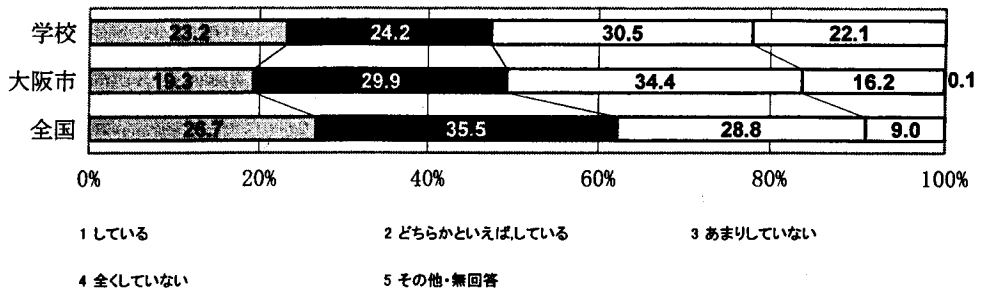
15

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



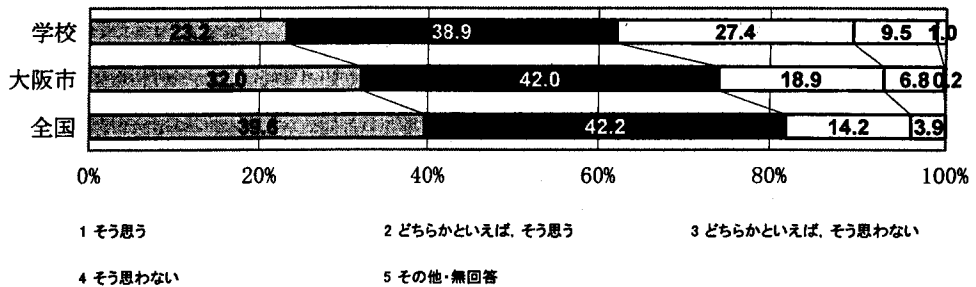
21

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



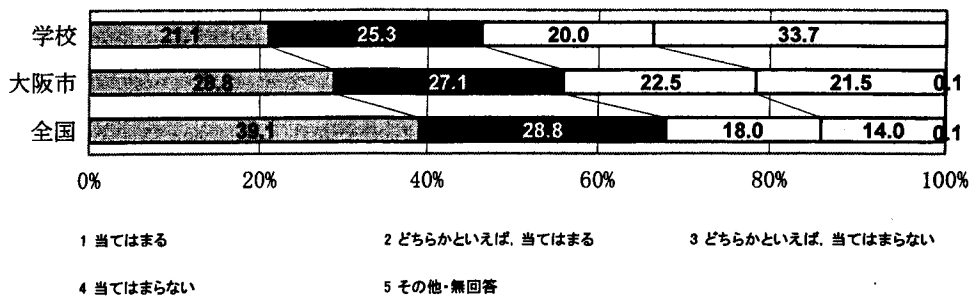
29

あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思いますか



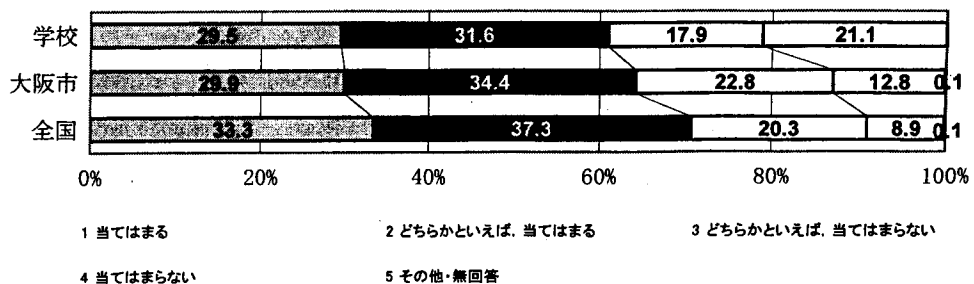
34

今住んでいる地域の行事に参加していますか



35

地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか



児童質問紙より

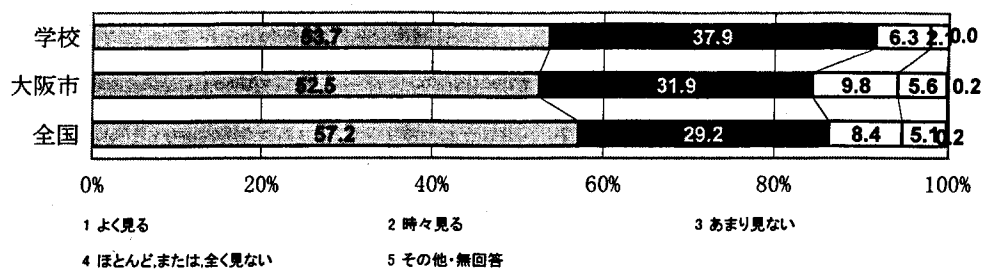
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 □8 □9

質問番号

質問事項

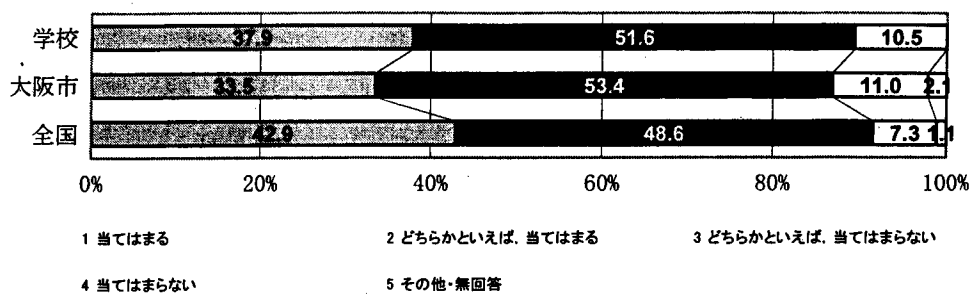
38

テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)



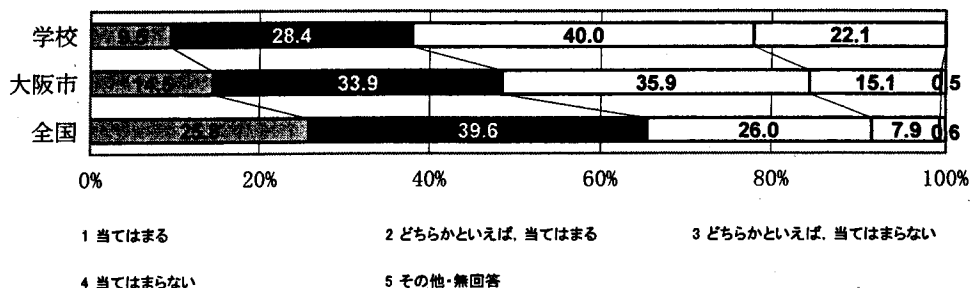
39

学校のきまりを守っていますか



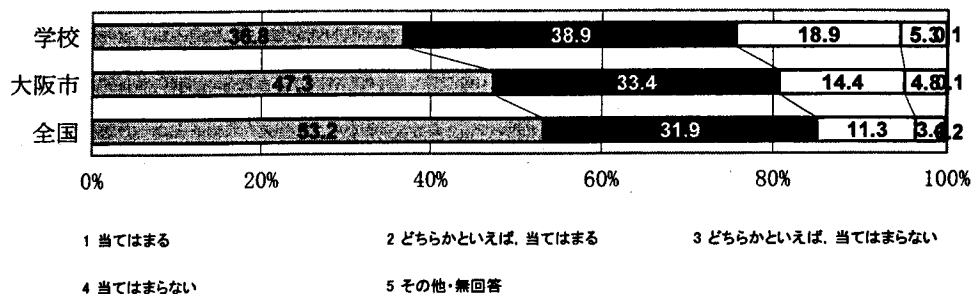
46

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



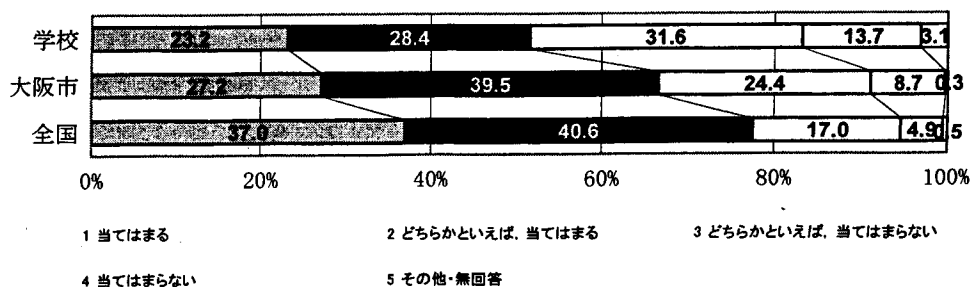
48

5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



56

5年生までに受けた道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか



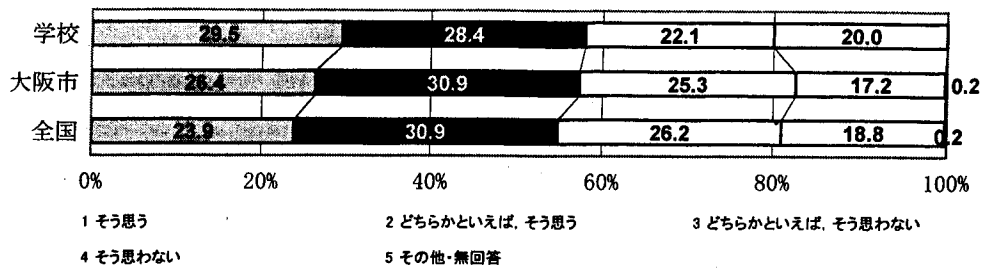
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 □8 □9

質問番号
質問事項

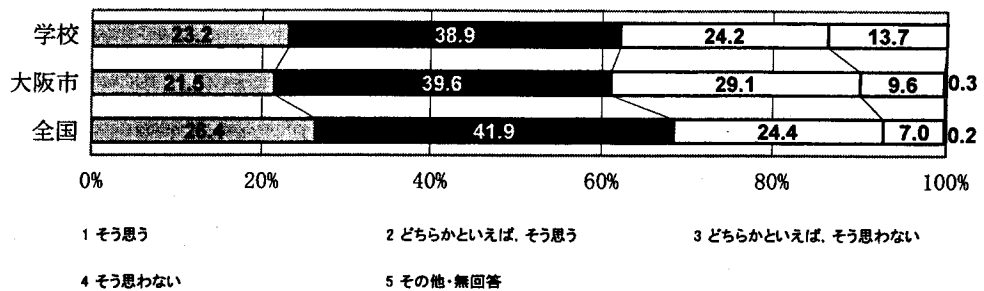
58

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



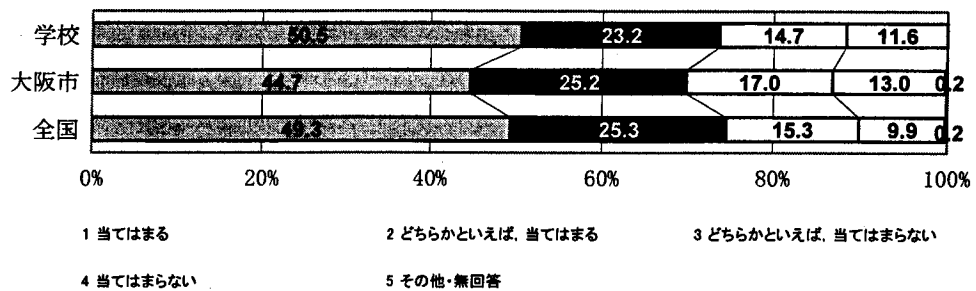
59

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



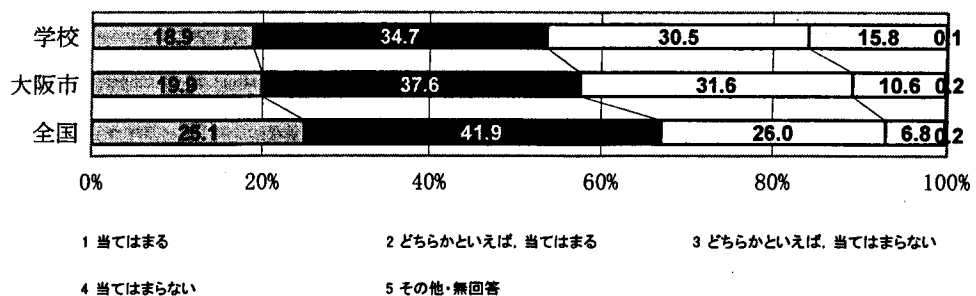
64

読書は好きですか



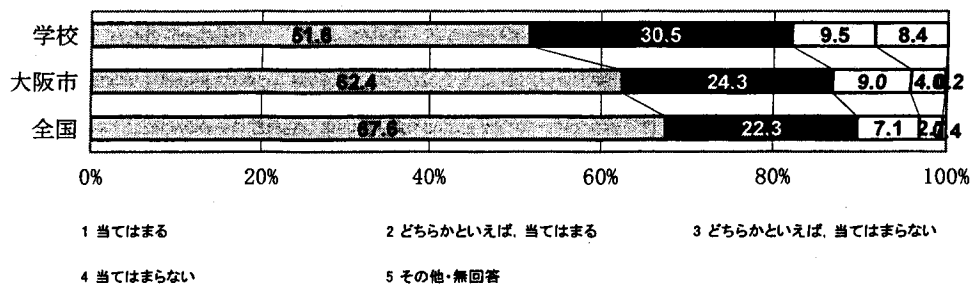
66

国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



77

算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



平成29年度 体力づくりアクションプラン 小学校

区名(住之江区)

学校名(大阪市立 小学校)

校長名(佐藤英明)

◆平均値

	種目別平均								
	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
男子	16.73	18.45	24.85	33.63	45.70	9.49	140.17	20.17	47.30
大阪市	16.39	19.24	32.42	39.47	48.99	9.37	147.87	22.59	52.61
全国	16.47	19.67	32.87	41.97	51.89	9.38	151.39	22.42	53.92
女子	17.80	19.77	33.17	35.09	29.58	9.68	141.52	13.74	51.09
大阪市	16.20	18.22	36.84	37.74	39.18	9.62	142.12	13.94	54.30
全国	16.13	18.60	37.21	40.06	41.29	9.61	145.31	13.88	55.54

結果の概要

男女共に握力は、全国平均を上回った。それに加え、女子では上体起こしでも全国平均を上回った。しかし、その他の種目は、全国平均を下回る結果となった。この結果から、どの種目も個人の運動能力の差や普段から運動に親しんでいる児童とそうでない児童との間に大きく記録の差があることがわかった。特に、男子は柔軟性・俊敏性・跳躍力に課題があることがわかった。一方女子は、柔軟性・俊敏性・持久力に課題があることがわかった。

これまでの成果と今後取り組むべき課題

評価(C)

学校全体では体力の向上を目標として、2学期の後半から3学期の前半までの期間に、かけ足タイムを取り入れ学校全体で体力の向上に取り組んだ。今までは、1・2年生のゾーンと3・4・5・6年生のゾーンに分け取り組んできたが、学年に応じた十分な走路を確保することができなかった。3学期の取り組みから、1・2年生のゾーンと3・4年生のゾーンと5・6年生のゾーンに分けてかけ足タイムを行った。ゾーンを3つにすることで、学年に応じた走路を確保することができた。また、休み時間にスポーツ委員会を中心に跳躍力と俊敏性の向上を図った縄跳び検定にも取り組んだ。児童自ら計画・実行できるようにしたことに取り組むことで、縄跳びへの興味関心も向上し、たくさんの児童が休み時間に進んで縄跳びの練習に取り組んでいた。次年度は、年間を通して児童自らが運動に親しみをもち進んで運動に取り組めるような工夫を考える必要がある。

評価 A:達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

◆基本的生活習慣

これまでの成果と今後取り組むべき課題

評価(C)

朝食を毎日食べている児童の割合が全国の割合よりも低く、1日の睡眠時間が8時間未満の割合も多いことがわかった。このように基本的な生活習慣が十分身につけていない児童がいることがわかった。しかし、この問題に関しては保護者の協力が不可欠だと考えるので、懇談会や学年だより学校だより等で呼びかけていく必要がある。

◆運動・スポーツに対する意識

これまでの成果と今後取り組むべき課題

評価(B)

運動に対する意識は、全体的に高いことがわかった。また、体育科の学習に対する意欲も高いことがわかった。しかしその中でも運動に対する苦手意識をもった児童もいることが分かった。運動への意欲を高めるためには低学年から系統的に達成感を得られるような指導を心がけ、運動が苦手な児童にも意欲をもって運動に取り組めるような指導計画を考える必要がある。

◆体力づくりのための取組内容

○体育的活動での改善点及び取組(学校行事、学年行事、PTA、地域とのかかわり等)

学校全体では、かけ足タイムを行い体力向上に取り組んだ。また、土曜授業の枠にPTA主催のふれあいスポーツ活動を行い、保護者と児童がスポーツを通して関わり合う取り組みも行った。その他にも、スポーツ委員会を中心に縄跳び検定や体育科で使用する補助用具の紹介を行い児童の運動能力の向上に努めた。次年度も、スポーツ委員会を中心に全体に呼びかけていく必要がある。

○体育の授業での改善点及び取組

指導者が教え込みの指導ではなく、主体的に学ぶ児童を育てる指導を理解し学び、実践していく必要がある。そのためには、校内研修で主体的な学びを育む場の設定、教師の役割、教育観等を学び合っていく必要がある。また、他校の研究会・研修会で学び校内で共有していくことも重要である。

平成 28 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における安立小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成 28 年 4 月から 7 月末までの期間に、5 年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にさせていただきたいと思います。

- 1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）
 - (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 - (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。
- 2 調査の対象
 - ・国・公・私立学校の小学校第 5 学年、特別支援学校小学部第 5 学年の原則として全児童
 - ・安立小学校では、5 年生 98 名
- 3 調査内容
 - ・児童に対する調査
 - ア 実技に関する調査（以下、「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）

小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8 種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅とび、ソフトボール投げ
 - イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）を実施する。

平成28年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」検証シート

大阪市立 安立 小 学 校

児童数

98

平均値

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	16.73	18.45	24.85	33.63	45.70	9.49	140.17	20.17	47.30
大阪市	16.39	19.24	32.42	39.47	48.99	9.37	147.87	22.59	52.61
全国	16.47	19.67	32.87	41.97	51.89	9.38	151.39	22.42	53.92
女子	17.80	19.77	33.17	35.09	29.58	9.68	141.52	13.74	51.09
大阪市	16.20	18.22	36.84	37.74	39.18	9.62	142.12	13.94	54.30
全国	16.13	18.60	37.21	40.06	41.29	9.61	145.31	13.88	55.54

結果の概要

男女共に握力は、全国平均を上回った。それに加え、女子では上体起こしでも全国平均を上回った。しかし、その他の種目は、全国平均を下回る結果となった。

この結果から、どの種目も個人の運動能力の差や普段から運動に親しんでいる児童とそうでない児童との間に大きく記録の差があることがわかった。

特に、男子は柔軟性・俊敏性・跳躍力に課題があることがわかった。

一方女子は、柔軟性・俊敏性・持久力に課題があることがわかった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

学校全体では体力の向上を目標として、2学期の後半から3学期の前半までの期間に、かけ足タイムを取り入れ学校全体で体力の向上に取り組んだ。今までは、1・2年生のゾーンと3・4・5・6年生のゾーンに分け取り組んできたが、学年に応じた十分な走路を確保することができなかったため、3学期の取り組みから、1・2年生のゾーンと3・4年生のゾーンと5・6年生のゾーンに分けてかけ足タイムを行った。ゾーンを3つにすることで、学年に応じた走路を確保することができた。

また、休み時間にスポーツ委員会を中心に跳躍力と俊敏性の向上を図った縄跳び検定にも取り組んだ。児童自ら計画・実行できるようにしたことで取り組むことで、縄跳びへの興味関心も向上し、たくさんの児童が休み時間に進んで縄跳びの練習に取り組んでいた。

次年度は、年間を通して児童自らが運動に親しみをもち進んで運動に取り組めるような工夫を考える必要がある。

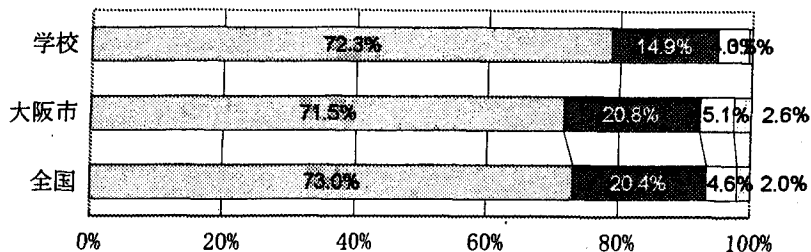
指導者が教え込みの指導ではなく、主体的に学ぶ児童を育てる指導を理解し学び、実践していく必要がある。そのためには、校内研修で主体的な学びを育む場の設定、教師の役割、教育観等を学び合っていく必要がある。また、他校の研究会・研修会で学び校内で共有していくことも重要である。

運動やスポーツについて（男子）

質問番号 質問事項

1

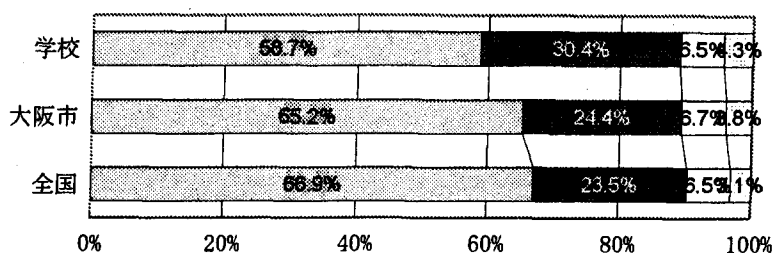
運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか



☐ 好き
☐ やや好き
☐ やや嫌い
☐ 嫌い

2

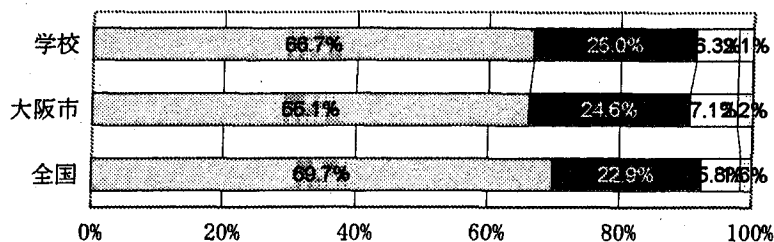
小学校入学前は体を動かす遊びが好きでしたか



☐ 好きだった
☐ やや好きだった
☐ やや嫌いだった
☐ 嫌いだった

4

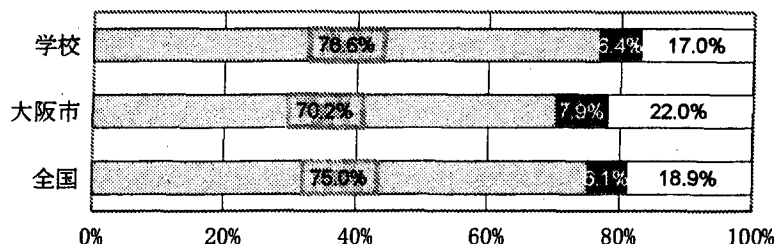
あなたにとって運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツは大切ですか



☐ 大切
☐ やや大切
☐ あまり大切ではない
☐ 大切ではない

5

中学校に進んだら、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思いますか。



☐ 思う
☐ 思わない
☐ 分からない
☐

成果と課題

運動や体を動かすことに対して関心のある児童は多い。しかし、これまでの運動経験が少ないために、獲得できていない技術や知識が多く、運動に対して苦手意識のある子どもがいる。中学校ではスポーツをする時間を多くとりたいという意識の児童が多いことは、運動は苦手ではあるが「やってみたい」という気持ちを持った児童がいる表れである。

児童が運動に対して進んで取り組めるように、友だちと協働して考えを深めながら自分の動きを高めていける授

今後の取組

運動に親しめる教材教具を設置し、環境づくりを整備していく。

また、運動が楽しいと思える授業づくり、考えて体を動かすことができる授業づくりを教員が取り組んでいく。

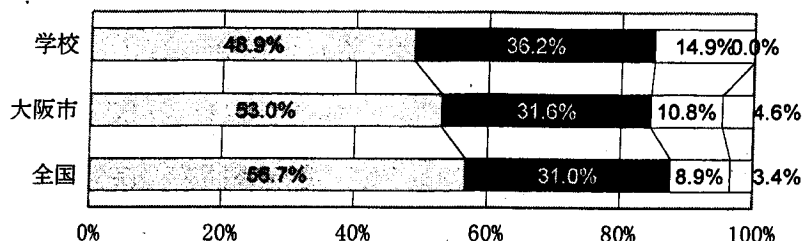
運動やスポーツについて（女子）

質問
番号

質問事項

1

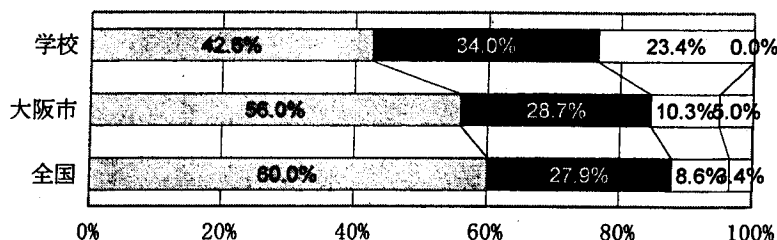
運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか



☐ 好き
☐ やや好き
☐ ややきらい
☐ きらい

2

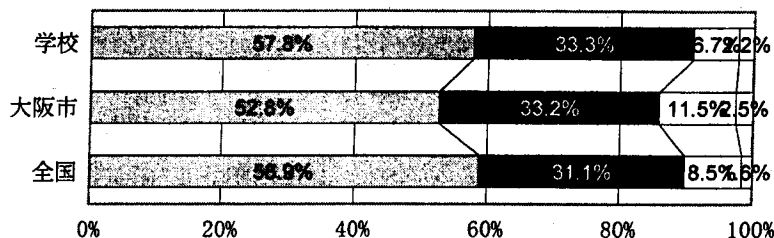
小学校入学前は体を動かす遊びが好きでしたか



☐ 好きだった
☐ やや好きだった
☐ ややきらいだった
☐ きらいだった

4

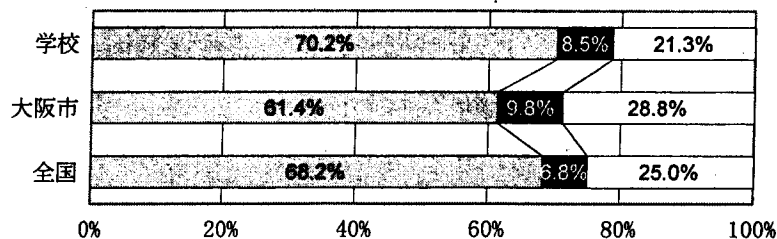
あなたにとって運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツは大切ですか



☐ 大切
☐ やや大切
☐ あまり大切ではない
☐ 大切ではない

5

中学校に進んだら、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思いますか。



☐ 思う
☐ 思わない
☐ 分からない
☐

成果と課題

全国レベルや大阪市レベルよりも運動に対してやや抵抗感がある。また、これまでの運動経験も少ない児童が多い。

しかしながら、中学校に行ったら運動する時間を持とうと考えている児童が、全国や大阪市レベルよりも高く、男子と同様に「運動をしたい」、「運動をしたほうがいい」と考えている児童は多い。

運動に対しての意欲がさらに伸びるように、遊びや授業を通して楽しく体を動かす経験をさせていくことが課題で

今後の取組

運動に親しめる教材教具を設置し、環境づくりを整備していく。

また、運動が楽しいと思える授業づくり、考えて体を動かすことができる授業づくりを教員が取り組んでいく。

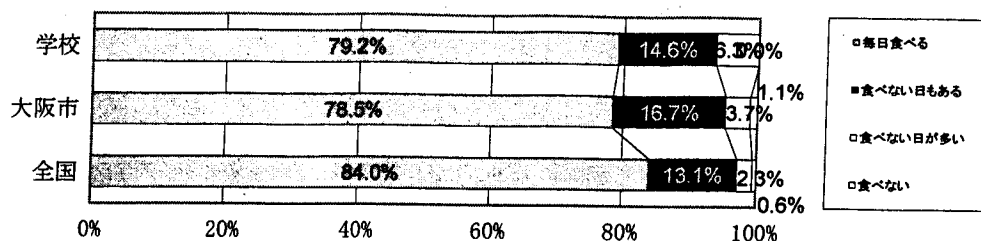
ふだんの生活について（男子）

質問
番号

質問事項

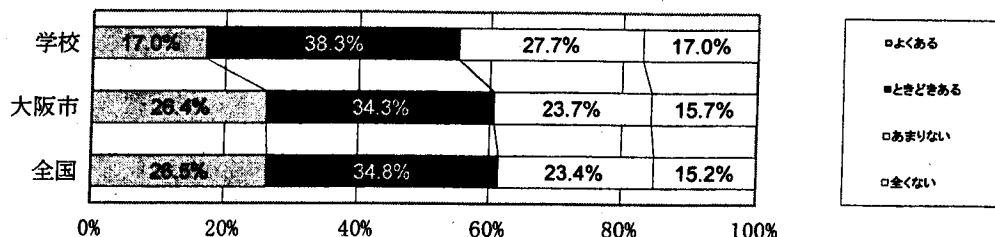
7

朝食は毎日食べますか(学校が休みの日もふくめます)



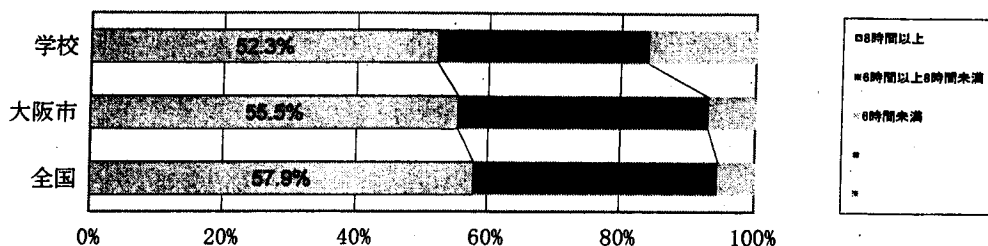
13

家の人から運動やスポーツを積極的に行うことをすすめられますか



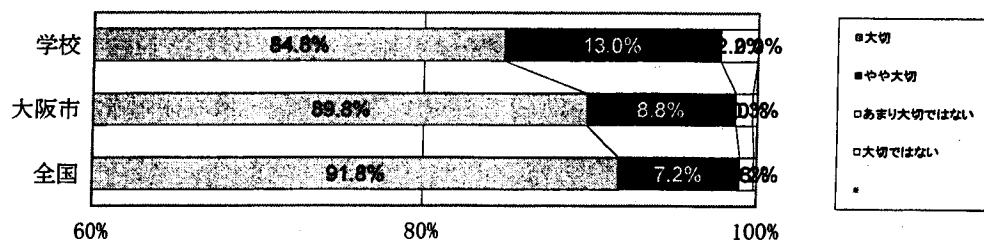
9

毎日どのくらいねていますか。



15

あなたが健康でいるために食事をしっかり取ることはどのくらい大切だと考えていますか。



成果と課題

睡眠や食事に対する関心の低い児童が全国や大阪市レベルより低い。
健康な体に規則正しい睡眠と栄養を考えた食事が関係があることを学習し理解させていくことが課題である。
また、保護者が自分の子どもに対して運動の必要性をあまり感じていないような傾向があるので、学校だよりやPTA活動等で保護者の啓発を行い、家庭で子どもに対して運動の重要性について考えるように示していく。

今後の取組

・学校だよりやホームページ等でアンケート結果を公表し、PTA実行委員会等で話題にすることで、体を動かすことの重要性や理想的な睡眠時間や食事のあり方について考え行動できるようにする。
・自分の体や健康状態に関心を持たせる保健指導を行う。

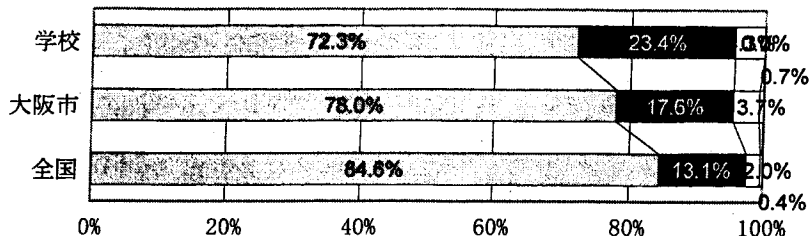
ふだんの生活について（女子）

質問
番号

質問事項

7

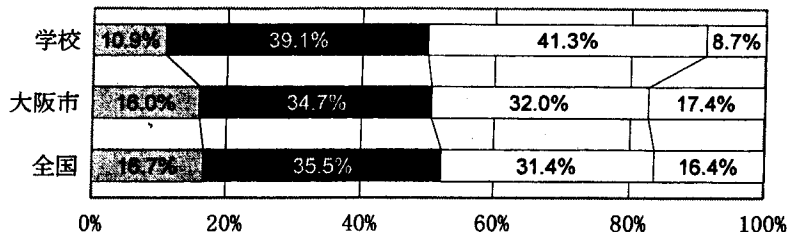
朝食は毎日食べますか(学校が休みの日もふくめます)



☐ 毎日食べる
☐ 食べない日もある
☐ 食べない日が多い
☐ 食べない

13

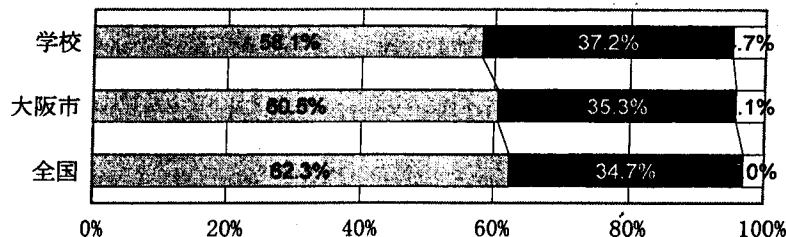
家の人から運動やスポーツを積極的に行うことをすすめられますか



☐ よくある
☐ ときどきある
☐ あまりない
☐ まったくない

9

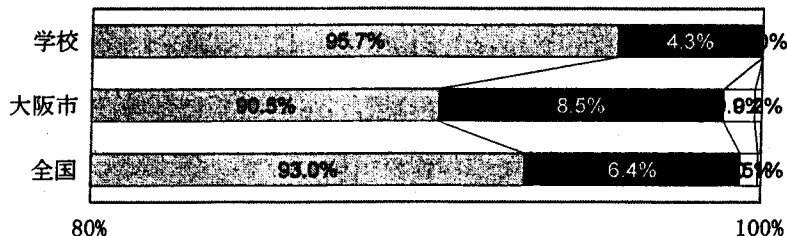
毎日どのくらいねていますか。



☐ 8時間以上
☐ 6時間以上8時間未満
☐ 6時間未満

15

あなたが健康でいるために食事をしっかり取ることはどのくらい大切だと考えていますか。



☐ 大切
☐ やや大切
☐ あまり大切ではない
☐ 大切ではない

成果と課題

食事が健康な体作りに必要であるとわかっている児童は多いが、実際の睡眠時間や朝食を食べている児童は男子ほどではないが全国や大阪市レベルよりやや低い。

健康な体に規則正しい睡眠と栄養を考えた食事が関係があることを学習し理解させていくことが課題である。

また、保護者が自分の子どもに対して運動の必要性をあまり感じていないような傾向があるので、学校だよりやPTA活動等で保護者の啓発を行い、家庭で子どもに対して運動の重要性について考えるように示していく。

今後の取組

・学校だよりやホームページ等でアンケート結果を公表し、PTA実行委員会等で話題にすることで、体を動かすことの重要性や理想的な睡眠時間や食事のあり方について考え行動できるようにする。

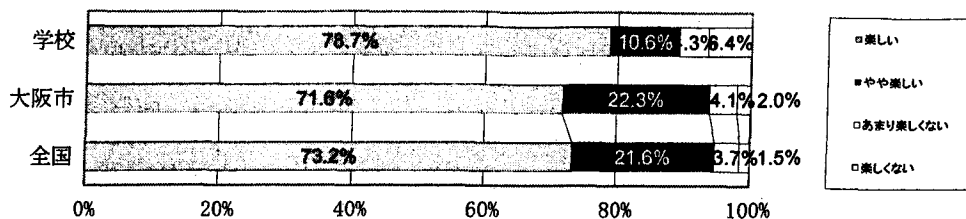
・自分の体や健康状態に関心を持たせる保健指導を行う。

体育の授業について（男子）

質問番号 質問事項

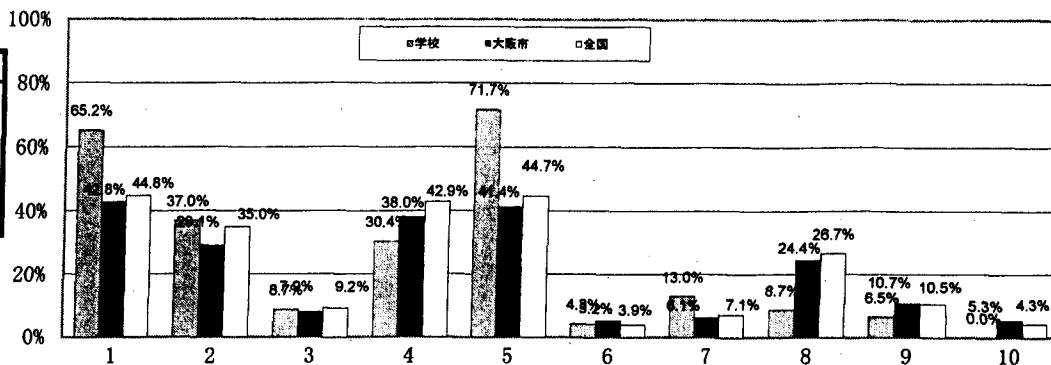
17

体育の授業は楽しいですか



22

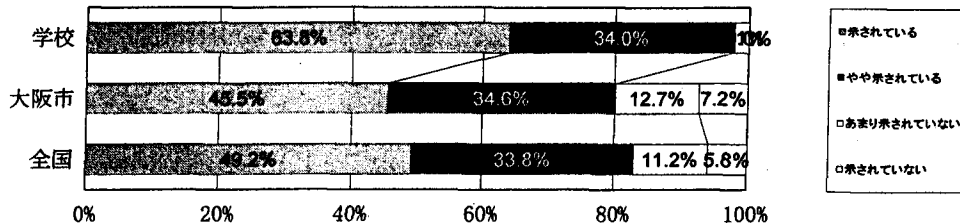
これまでの体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか



- 1 授業中先生に個別にコツやポイントを教えてもらった
- 2 授業中自分で工夫した
- 3 自分に合った場やルールが用意された
- 4 先生や友達のまねをしてみた
- 5 友達に教えてもらった
- 6 授業中に自分の動きをビデオで見た
- 7 授業外で先生に教えてもらった
- 8 授業外で自分で練習した
- 9 授業外で自分で本やビデオを見た
- 10 できるようになったことがない

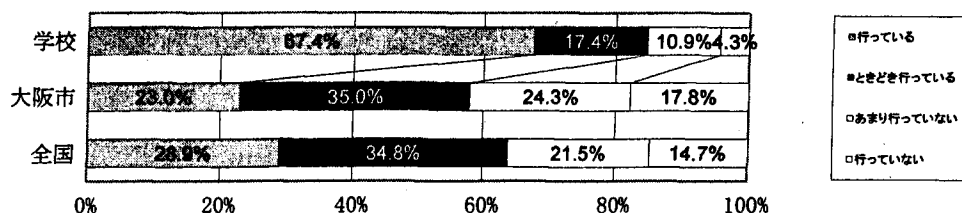
18

ふだんの体育の授業では、授業の始めに授業の目標（目当て・ねらい）が示されていますか。



19

ふだんの体育の授業では、授業の最後に今日学んだ内容を振り返る活動を行っていますか。



成果と課題

「体育の授業は楽しい」と感じている児童が昨年度の児童よりも減っている。「できなかったことができるようになった」きっかけや理由について「先生や友だちから教えてもらった」といったポイントが全国、大阪市レベルより高い。今年度研究教科を体育に設定し、学習のねらいを明確にして子どもが主体的に考え、友だちと高めていく授業実践を行った成果であるといえる。次年度以降も、運動のコツを友だちと相互に教え合いをするような授業の進め方等の工夫を継続して行っていく。

今後の取組

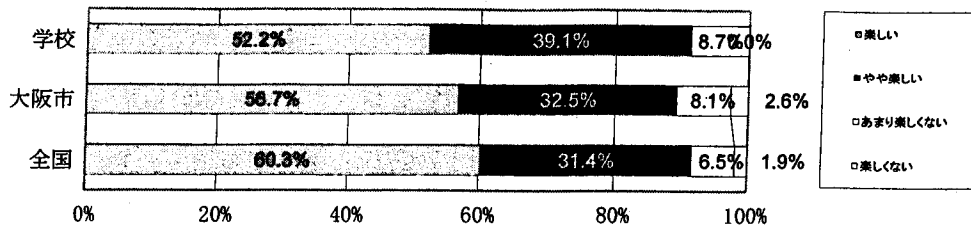
体育学習の目標を明確にし、目標に向けて取り組めたかどうかの振り返りを行う授業スタイルを構築していく。主体的に課題に向けて取り組めるように、学習カードの作成や視聴覚機器を活用した教材を指導に活用する。

体育の授業について（女子）

質問番号 質問事項

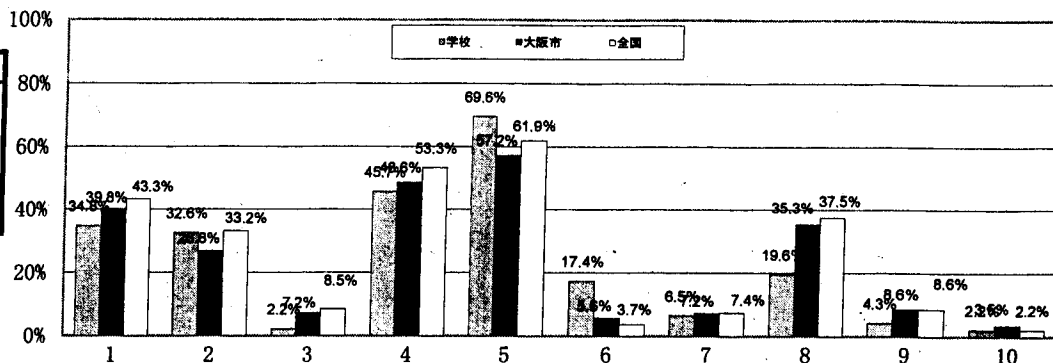
17

体育の授業は楽しいですか



22

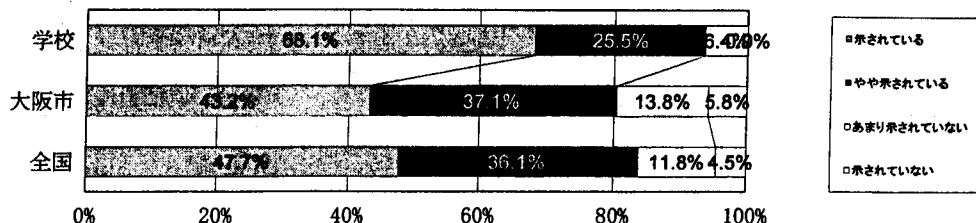
これまでの体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか



- 1 授業中先生に個別にコツやポイントを教えてもらった
- 2 授業中自分で工夫した
- 3 自分に合った場やルールが用意された
- 4 先生や友達のまねをしてみた
- 5 友達に教えてもらった
- 6 授業中に自分の動きをビデオで見た
- 7 授業外で先生に教えてもらった
- 8 授業外で自分で練習した
- 9 授業外で自分で本やビデオを見た
- 10 できるようになったことがない

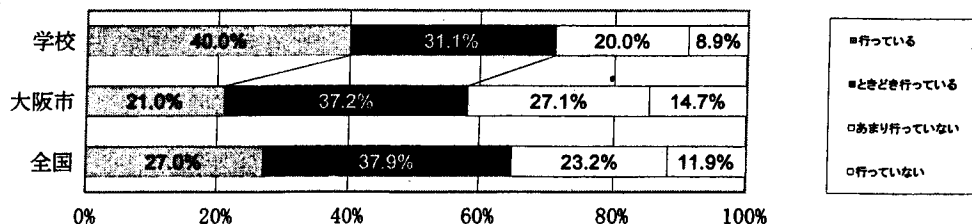
18

ふだんの体育の授業では、授業の始めに授業の目標（目当て・ねらい）が示されていますか。



19

ふだんの体育の授業では、授業の最後に今日学んだ内容を振り返る活動を行っていますか。



成果と課題

男子と同様に「体育の授業は楽しい」と感じている児童が全国、大阪市レベルより低い。「できなかったことができるようになった」きっかけや理由について「友だちから教えてもらった」といったポイントが全国、大阪市レベルより高い。今年度研究教科を体育に設定し、学習のねらいを明確にして児童が主体的に考え、友だちと高めていく授業実践を行った成果であるといえる。次年度以降も、運動のコツを友だちと相互に教え合いをするような授業の進め方等の工夫を継続して行っていく。

今後の取組

体育学習の目標を明確にし、目標に向けて取り組めたかどうかの振り返りを行う授業スタイルを構築していく。主体的に課題に向けて取り組めるように、学習カードの作成や視聴覚機器を活用した教材を指導に活用する。単元の導入の仕方や教材の工夫を行い、楽しさが感じられる授業づくりを進めていく。

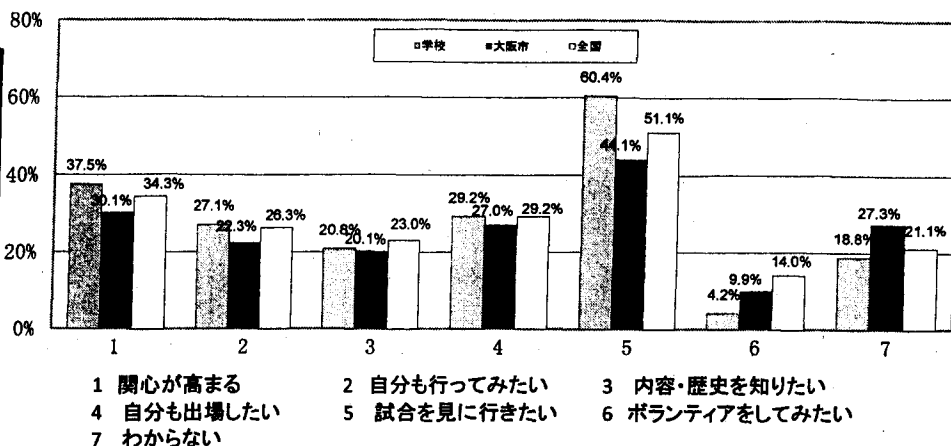
その他（男子）

質問
番号

質問事項

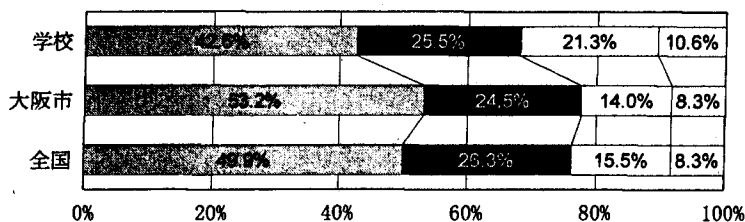
30

オリンピック・パラリンピックへの気持ち



25

放課後や学校が休みの日に、ボールなどを使って投げる運動をすることがありますか。



よくある

ときどきある

あまりない

全くない

成果と課題

「オリンピック・パラリンピックへの気持ち」の項目では、「関心が高まる」、「試合を見てみたい」というポイントが高かった。

「放課後や学校が休みの日にボールを使って運動する」児童のポイントは、全国、大阪市レベルより低い。地域に大きな公園や遊び場がないためや学習塾や習い事等で時間がないことも影響している。放課後の運動場の開放を行っているが、遊んでいる児童は少数である。

今後の取組

さまざまなスポーツの世界に興味・関心を持てる児童を育てられるように、話題の提供や新しいスポーツを取り入れた授業を行う。

みんな遊びの時間を設定し、進んで体を動かそうとする児童を育てていく。

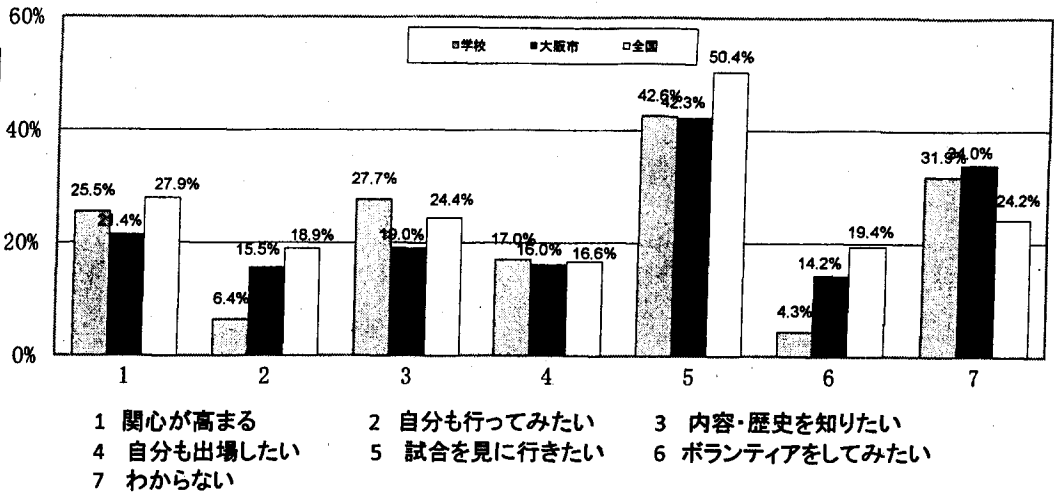
その他（女子）

質問
番号

質問事項

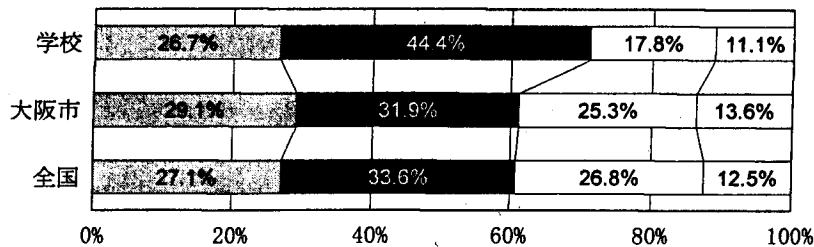
30

オリンピック・パラリンピックへの気持ち



25

放課後や学校が休みの日に、ボールなどを使って投げる運動をすることがありますか。



成果と課題

「オリンピック・パラリンピックへの気持ち」の項目では、「内容・歴史を知りたい」「試合を見てみたい」というポイントが高かった。

「放課後や学校が休みの日にボールを使って運動する」児童のポイントは、全国、大阪市レベルより高い。放課後の運動場の開放を男子よりもよく活用して遊んでいる傾向が表れている。

今後の取組

さまざまなスポーツの世界に興味・関心を持てる児童を育てられるように、話題の提供や新しいスポーツを取り入れた授業を行う。

みんな遊びの時間を設定し、進んで体を動かそうとする児童を育てていく。

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

1 平成28年度の調査結果の概要

区分	結果
① 力行為の発生件数(件)	0
② じめの認知件数(件)	1
③ いじめの現在の状況で「解消しているもの」の件数の割合(%)	100
④ 小・中学校における不登校児童生徒数(人)	1
④高等学校における長期欠席生徒数(人)	
⑤高等学校における中途退学者数(人)	

2 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	深刻な問題まで行っていないが、暴力的な行動を行う可能性のある児童が2年生に2名ほどいるのが現状である。 複数の教員で指導に当たっており、継続して見守っていく必要がある。保護者と情報共有し指導にあたっていく。
② いじめの状況等	ライン等を活用したいじめがあった。保護者と連携を取り、個別に指導を行い、現在は解消している。中学校に引き継ぎ様子を見ていく。
③小・中学校における不登校の状況等	保護者の抱え込みによる不登校が5年生で起こっている。担任、学年、管理職で対応している。
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑤高等学校における中途退学の状況等	

※ 両表とも、小学校・中学校は①②③の項目、高等学校は①②④⑤の項目について、それぞれ記入すること